

ぶらっと山歩（さんぽ）

一服の涼を求めて「有馬富士とその周辺」へ

文と写真：吉野会長

今年の7月から8月3週目まで続いた暑さは超異常であった。最高気温が30℃を超え、38℃に迫る日が続くと、真夏日続きという生易しい表現を飛び越して、酷暑日続き、いや、熱中症死亡対策超猛暑日の表現がピッタリであった。加えて台風が次から次へと発生し、8月の最終週に予定している「槍ヶ岳を楽しむ」山行も、台風20号の通過進路予報によっては中止せざるを得なくなってきた。「それもこれも、異常気象の所為(せい)や！」と愚痴のはけ口は飲むか山歩きしか無く、それではと1回だけ残っていた神鉄シーパスワンを利用し、一番遠くの三田まで乗ってぶらっと山歩に出かけることにした。



JR 福知山線・新三田駅ホーム

ところがいざ三田へとなると何処の山へ？・・・JR 藍本駅から登る虚空蔵山は6月にニューサークルメンバーの例会で行ったし、大岩ヶ岳や羽束山、大船山も今年に入って山案内で行っているの、・・・そや！9月中旬に四国のトラベル会社から案内を頼まれている「有馬富士」へ下見を兼ねて涼みに行く！・・・ということにした。

考えてみれば、この山に以前登った記憶は定かでない。30年？いや40年も前ではなから

うか？・・・当時はたしか JR 福知山線三田駅で降り、176号線を跨いで北へ延びる県道をトボトボ歩き、志手原という地名の場所から静かな部落を抜けて登山道を見つけ登ったように思うが、それも定かではない。



福島大池を隔てて望む有馬富士

それから随分と後（平成13年）になるがこの山の麓は、三田市が多様化するレクリエーション需要にこたえる目的で公園づくりに着手。人と自然の博物館や三田市教育委員会、兵庫県園芸・公園協会などで構成された「有馬富士公園運営・計画協議会」によって素晴らしい自然公園「県立有馬富士公園」が完成し、開園した。



かやぶき民家の暮らし再現（休憩所）



ピンクや白の蓮の花が咲く園内

したがって、古い記憶にあるこの辺りは、ため池と田畑に、ぽつりぽつりと点在している農家ぐらいしか思い浮かばず、広大な公園に変身した姿には目を見張るものがあり、三田市民のみならず、他府県他市町村からも見学やピクニックにと多くの人を訪れているであろうと思われる。

ところで普通「〇〇富士」と言われている山は形が富士山に似ているために通称そう呼ばれて名がついたもので、大概は昔からその土地の人に親しまれている実名があるものだ。



「有馬郡全図」 出典:有馬郡誌

では？と「有馬富士」の実名は？と調べたが分からず、この山を管轄する三田市農業振興課に問合せても「昔から「有馬の富士山」としか聞いていないし、他の名は知りません！」とのことであった。どうも納得がいかず、古い地図にでも載っていないかと思い、確か三田市が出

来る前のこの辺りは摂津国（兵庫県）有馬郡であったことを思い出して調べてみた。

「有馬郡は1879年（明治12年）に行政区画として発足した。当時の郡域は、神戸市北区の一部、灘区の一部（六甲山町の一部）、それに三田市の大部分が含まれたもの・・・」とあった。そこで有馬郡の古地図を調べたところ、有りました！「富士山」の表示が！・・・。近くにある千丈寺山や大船山、羽束山も記載されていた。三田市職員が言った通りこの山は古い時代から「富士山」で通っており、有馬郡の富士山から「有馬富士」と呼ばれるようになったことが分かった。（地図の中央赤丸内に富士山の文字あり）



上・水面を渡ってくる風にほんの一瞬、秋を感じた

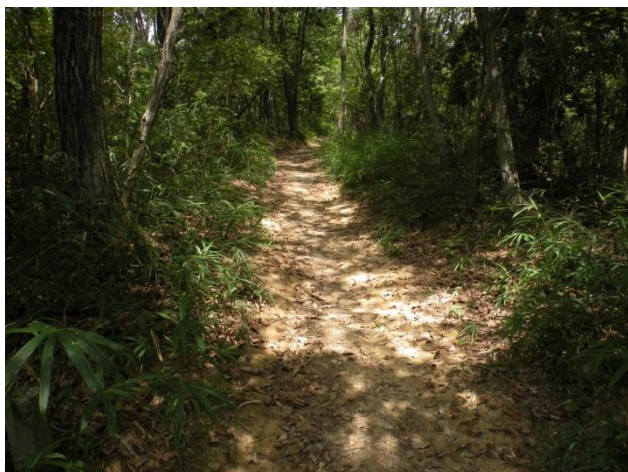
下・福島大池の向こうに見える羽束山の全容



後先になったが、ぶらっと歩いた記録を記しておこう。

神鉄は終点三田駅で降り、JR 福知山線に乗り換えて新三田駅に降りる。176号線を渡ると、猪

名川方面に通じる整備された北摂里山街道（県道 570 号線）である。有馬富士公園中央入口へと向い、のんびりと歩道を歩く。20 分程で到着し園内へ。まずは有馬富士を眺める絶好の場所「福島大池」へと少し下って行く。池の西側から望む有馬富士は最高のロケーションだ！・・・時計回りに進み、かやぶき民家の休憩所へ。ここにいらしゃった管理人の方とお茶を頂きながら下見に来たことなどを話して、登山道へ。



最初は広く歩きやすい登山道だが・・・

地形図から判断すると、南側から登り、北側へ下るコースが良いだろうと思い、そうすることにした。僅か 374 メートルの標高しかない山だが、山頂手前の岩場が急で、「わんぱく岩」の表示がされていた。



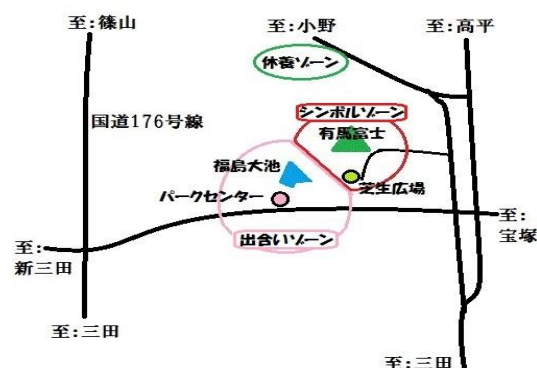
ここから山頂近くまでが岩場の急登！

山頂では親子連れのハイカーが一組と、何やら楽しそうに食事をしているアベックハイカーが

いた。



頂上の写真を撮って、邪魔しないようにとすぐさま下山にかかった。下山道は結構長く感じられ、低山なのにいい運動になるな～などと思いながら歩いた。考えてみると、県が管理する有馬富士公園エリアと、三田市が管理する有馬富士森林公園エリアの二つが背中合わせになっているので広大なはずだ。



公園を後にする時、満開に咲いたサルズベリの花が「又おいでよ！」と見送ってくれた様な気がしたが、いや、その反対かも？・・・ね！。



